

第14回 まちづくり市民協議会会議録

日時：平成30年3月27日（火）18時30分～
会場：市役所3階大会議室1・2号

出席者 委員 19名
事務局 6名

1 市長あいさつ

3年間にわたり皆様方におかれましては、大変お世話になり感謝申し上げます。14回の会議を開催してきた第5期であるが、これまでの期についての開催数を調べてみると、第1期が9回、第2期から第4期が各7回と今期は倍の会議に参加いただいた。それと同時にタウンウォッチングや光市人口ビジョン、光市まち・ひと・しごと創生総合戦略にも関わりいただき、また、ゆたかな社会を目指す第2次光市総合計画の策定にも多くの意見を頂戴した。お陰で平成29年度から第2次光市総合計画が始まりもうすぐ2年目を迎える訳であるが、ようやくゆたかな社会への道筋というものが私たちにも見えてきた気がする。

世界に目を向けてみると、こんな時代が来るとは思いもしなかった時代が本当に来ているのだと実感する。アメリカ合衆国ではトランプ氏が大統領となり、アメリカファーストとして自国の国益が第一の政策に舵を切っている。中国、ロシア、ヨーロッパ諸国も同様であり、このような変化の激しい時代を突き進んでいるという実感を持っている。

こういう時代には、地図とコンパスが一番必要となる。私はボーイスカウトの野外活動でハイキングをする時には、地図とコンパスを持って全く知らない山や道を進んでいく。私たちのまちでいうと、第2次光市総合計画が未来へ進んでいくための地図であり、市民の皆様の物事を成し遂げようとする情熱、私たちの目標を達成しようとする強い意志がコンパスだと思う。

一方で、地図はいらない、コンパスさえあれば大丈夫という意見もあるが、私は地図とコンパスのふたつが揃ってこそ、まちが目標に向かって真っすぐ進むと思う。その地図である第2次光市総合計画の策定にご協力いただいた皆様の3年間の努力に、心より感謝申し上げます。

第5期の皆様の任期は3月31日までであるが、引き続き新年度の4月からは第6期まちづくり市民協議会をぜひとも作りたいと考えている。今後もご協力をいただきたい。

2 会長あいさつ

私たち第5期光市まちづくり市民協議会は平成27年5月に委嘱を受け、今回が14回目の会議開催となる。この間、タウンウォッチング、市民対話集会、光市まち・ひと・しごと創生総合戦略、光市人口ビジョン等について、貴重な意見をいただいた。また、

皆様からいただいた意見を反映して第2次光市総合計画が策定されたところである。

本日の協議会で、第5期光市まちづくり市民協議会の最後の会議となる。報告事項として、平成29年度光市まちづくり市民アンケートの結果について、平成30年度の予算の概要について、平成30年度から平成32年度の行動計画について、事務局より説明を受けご意見をいただきたいと思う。皆様それぞれの立場で忌憚のない意見をいただきたい。

3 事務連絡

- ・議事の進め方について
事務局から説明

4 議題

(1) 平成29年度光市まちづくり市民アンケートの結果について

事務局より資料に基づいて説明

【質疑】

●委員

市民アンケート対象者の2,000人の選択は、男性女性・年齢構成別等ではなく無作為なのか。

●事務局

そのとおりである。

回収数で見ると70代以上が3割少々となっている。アンケート送付時には、当市の年齢構成に沿ったサンプルとなっているが、若い世代の回収率が低く年配の方の回収率が高い等、世代により回収率に差が出ている。

●事務局

当市全体の年齢構成の割合に応じて年配の方への送付が多くなっている。回答としては若い方よりも高年齢層の方が回収率が高い傾向であり、本アンケート結果としては高年齢層の方が意見反映されているということはある。

●委員

回収率が50%以上と高くなっていることは素晴らしい。

どの世代にどれだけの送付をして、回収率がどうかは把握しているか。また、若い世代の回収率が低いならば若い世代に多めに送付するなど、若い世代の意見を吸い上げる工夫をしたらどうか。

●事務局

この結果報告書は限られた文量の中なので示していないが、クロス集計をしているのでデータは持っている。50代・60代・70代以上については50%以上の高回収率とな

っているが、10代は32%、20代は26%、30代は37%と低くなっているので、如何にこの世代の意見を吸い上げるかが引き続きの課題である。

●委員

若い方の回収率が低いため意見が反映されないのなら、その世代に多く送付することは可能なのか。

●事務局

可能か不可能かで言うと可能である。

●委員

アンケート回収後に詳細な分析をされており、このアンケートを有効に活用するため、年代別の配布率の調整をしてもよいのではないかと思う。

(2) 平成30年度予算の概要について

事務局より資料に基づいて説明

(3) 行動計画（平成30年度～平成32年度）について

事務局より資料に基づいて説明

【質疑】

●委員

行動計画の67ページの市役所本庁舎の耐震化に向けたあり方について、災害対策の観点からも早期に具体化するべき。現庁舎の耐震改修をするのか、または、新庁舎を建て替え整備するのか。従前の会でも議題になっているが建て替えが早道ではないか。

●事務局

耐震化というのは耐震改修を選択するのか、新庁舎に建て替えるのかというのはいずれも耐震化の整備手法ではある。今回は、現状の庁舎の耐震改修をするというよりも、新設も含めた耐震化のあり方を検討するというところでご理解いただきたい。

この耐震化については、議会も含めてどういう方向にしていくかは議論になっており、市民の皆様の大きな関心事である。災害対策の拠点ともなる施設が耐震性のない現状で良いのかというのは、我々にとっても大きな課題である。しかし、市長の考え方とすれば、大きな財源が必要な大きな事業であり、財源の確保の見通しとともに検討する必要があると考える。今、考えられる大きな財源の一つとして、合併に伴う合併特例債の期間の延長が国で議論されているので、その方向性も注視していきたい。

調査・研究として継続事業としているが、早期に方向性をお示ししたい。本年度の中間報告では、現実的な問題として事業費等を総合的に考えれば耐震改修の選択肢は可能性が薄いのではないかということまではお示ししている。耐震改修であっても20億～30億円との試算もあり、現実的なのは、やはり建て替えであるという方向で検討を進めていく。

●委員

地震に関して、光市の震度計はどこに設置してあるのか。思いよりも低い値が出ている気がする。

●事務局

光市の震度計は、市役所本庁舎と大和支所にある。これは合併する前の市町村ごとに県が1箇所ずつ設置しており、現在の光市の震度に関しては、光と大和の震度計の高い方の数値である。

5 その他

- ・事務局から事務連絡
次期まちづくり市民協議会について紹介
- ・出席した委員全員から一言ずつ感想
- ・事務局職員が一言ずつ感想

終了